

第6章 まとめ

本検討会では、災害廃棄物に関連する情報を収集するとともに、被災地における調査を実施し、科学的・専門的な見地から受入れの可能性を調査研究してきたものである。

広域処理の状況は、処理の進捗率が20%程度で、被災地における処理や再利用だけでは、目標とする平成25年度末までの処理完了は困難な状況にある。一日も早い被災地の復興のためには、災害廃棄物の広域処理が不可欠である。

現地調査の結果、岩手県宮古市及び大槌町の災害廃棄物について、放射能濃度、放射線量率とも安全性には問題のないレベルにあることを確認した。

また、安全評価において、放射能濃度を最も高く想定し、施設周辺の住民や作業員が受ける放射線量率を試算したが、いずれも人の健康に対するリスクが無視できるレベルである。

このように、被災地で実際に測定したデータと周辺住民や作業員に対する安全評価等により、通常の処理・処分方法でも安全性には問題はないが、焼却処理、埋立処分における安全対策を講じ、監視体制の充実や積極的な情報公開を図ることが市民の安全・安心に大きく寄与するものと考えている。

金沢市災害廃棄物受入れ可能性検討会

1. 委員名簿

	氏名	所属	備考
座長	吉岡 満夫	福井工業大学原子力技術応用工学科教授	放射能全般
委員	荒井喜久雄	公益社団法人全国都市清掃会議技術部長	廃棄物処理
委員	棚谷 吉郎	金沢工業大学工学部機械系教授	廃棄物処理
委員	松井 修	金沢大学大学院医学系研究科教授	放射線医学
委員	山本 政儀	金沢大学環日本海域環境研究センター教授	放射能全般
委員	横江 斉	石川県環境部次長（廃棄物担当）	行政（県）
委員	大田 茂	金沢市危機管理監	行政（市）
委員	川原 利治	金沢市保健局長	行政（市）
委員	坂井 修二	金沢市環境局長	行政（市）
事務局		金沢市環境局環境政策課	

（敬称略・順不同）

2. 検討会経過

平成 24 年 4 月 24 日 第 1 回金沢市災害廃棄物受入れ可能性検討会

- ・ 検討会の目的を確認
- ・ 災害廃棄物の広域処理、人体・自然環境への影響等についての課題を整理

6 月 5 日 第 2 回金沢市災害廃棄物受入れ可能性検討会

- ・ 周辺住民及び作業者の受ける線量の評価方法を確認
- ・ 被ばく線量限度と安全基準の考え方を整理

7 月 5 日 第 3 回金沢市災害廃棄物受入れ可能性検討会（被災地の現地調査）

- ・ 岩手県宮古市及び大槌町の災害廃棄物の状況を把握
- ・ 広域処理の対象となっている選別後の災害廃棄物の放射能濃度等を測定
- ・ 災害廃棄物の付近で空間線量率を測定

7 月 24 日 第 4 回金沢市災害廃棄物受入れ可能性検討会

- ・ 現地調査で実施した放射能濃度等の測定結果を評価
- ・ 災害廃棄物の処理・処分における安全対策を検討

8 月 2 日 第 5 回金沢市災害廃棄物受入れ可能性検討会

- ・ 検討会報告書の取りまとめ